

記念講演 「ピアノと音の仕組み ～こどもたちにとって大切なことは～

講師 西川ピアノ調律所 調律師 西川昌孝氏

ピアノを解体しながら、部品の説明等も含めた講演であった。

- ・ピアノは木と金属とフェルトでできている、鍵盤の白黒部分はプラスチックでできている。鹿皮を使っている部分もある。昔、鍵盤は象牙で作ってある等、自然のもので作られていたが、自然にも限りがあり、見た目がきれいなものができたらよいという風に変わっていき、楽器の中に自然が無くなり、効率化を求めるようになった。
- ・効率化はいいイメージである。仕事の効率化、デジタル化などはよいことである。しかし、楽器、教育、文化に効率化が入ってくると厄介である。効率化するためにうまくいかないものは捨てればよいということになる。企業としては効率化を図らないと利益が上がらないが、子ども達には効率化より必要なものがある。親と一緒に過ごすことが大事であり、それが共存である。
- ・自然がなくなるとピアノが作れなくなるので困る。そして、ピアノや音楽がいいものだ、楽しいと思う人が減るということになる。
- ・人間は、自然の中にいるとわがままは言えない。山道にある石につまづいても自己責任であるが、教育現場では全部自分の予想範囲内で物事が終わらないと怒りになる。
- ・子どもは高い声を聴くと安心する。高音が好きならデジタル音を聞かせればいいのかと言えそうではない。感覚を研ぎ澄ませるために母の声は高い。自然のおなかの中から産まれてきた子どもは自然の音がいいと口に出して言わないが、子どもの聴覚形成にとって、ピアノはいい音と言える。子どもたちは感覚の中で生まれ、感覚を研ぎ澄まししていく。
- ・子どもに一番必要なことは五感である。私立幼稚園は教育の質が高いので五感を研ぎ澄ませる保育をされていると思う。五感を研ぎ澄ませるために効率化は必要なのか。
- ・最近子どもが変わってきていると言われる。自然の中から産まれてきて、子どもを育てる環境が変わっただけではないか。個性を伸ばせない環境は子どもにとって窮屈だろう。いい大人との出会いが大事である。

